

微風

そよかぜ

山陰労災病院

平成21年3月号

No.27

- 病院機能評価認定施設
- 医師臨床研修指定病院
- 救急告示病院

山陰労災病院の基本理念

私たちは、地域の皆さまと働く人々から信頼され
選ばれる病院を目指します

身近な危険動物

麻酔科 倉敷 俊夫

はじめに

人に害を及ぼす動物は多種類いますが、その中で日常生活において遭遇する機会のある代表的な危険動物についてお話します。

平成20年度に、動物被害で当院の救急外来を受診した患者を調べてみますと、件数の多い順に、ハチ20件、イヌ10件、ムシ7件、ムカデ6件、ネコ4件、ヘビ3件となりました。その他に、ネズミ、ヌートリア、ウニ、ゴンズイ、クラゲが各1件ずつありました。

また、同じく平成20年度に鳥取県西部消防が搬送した動物被害患者の内訳は、ハチ9件、ヘビ7件、ムカデ7件、イヌ2件で、ネコ、ムシ、ヌートリアが各1件でした。

これらの統計からも判るように、被害に遭いやすい代表的な危険動物は、ハチ、ヘビ、イヌ、ムカデなどです。なお、種類が特定できなかった小動物をムシと表現していますが、この中にはアブ、ブユ、ヌカカ、チャドクガなどの昆虫やダニ、クモなどが含まれている可能性があります。

ハチ

身近な動物の中で最も恐ろしいものはハチです。動物による人の死亡例の中ではハチがトップで、日本では年間20～30名近くの方がハチにより亡くなっています。ハチに刺されると、急速に血圧が低





下して意識が無くなったり、気道が腫れて呼吸が困難になることがあります。この原因はアナフィラキシーと呼ばれていますが、一刻も早くアドレナリンという薬の注射で救命する必要があります。従来、この薬は医師しか扱えませんでした。平成15年よりアドレナリンを自己注射できる「エピペン」という商品が自費にはなりますが認可されました。アナフィラキシーを経験した人は是非携帯することをお勧めします。

ハチの被害を防ぐためには、ハチの習性を知ることが役立ちます。ハチは単独行動をしているときは比較的小となしいのですが、巣にいるときは攻撃的になります。特に、スズメバチは巣に近づくと、周囲を飛びながら顎でカチカチと音を立てて威嚇します。この音を聞いたら、ゆっくりとその場から離れます。手で振り払ったりすると、興奮し攻撃してきます。また、黒いものを攻撃しやすいので、山などに行くときは、白っぽい服装がよいと思います。香水の匂いで興奮するので、香水は使用しないで下さい。

へび

本州にいるへびで代表的なものは、マムシ、ヤマカガシ、アオダイショウ、シマへびの4種ですが、その他に、ジムグリ、シロマダラ、タカチホへび、ヒバカリがいます。後者の4種は、絶滅が危惧される無毒な小型のへびです。群馬県のジャパンスネークセンターに見学に行ったときも、この4種類のへびは見ることはできませんでした。

毒のあるのはマムシとヤマカガシです。この2種のへびは是非とも他のへびと区別できる必要があります。マムシに咬まれたとき、乾燥まむしウマ抗毒素を注射する治療がありますが、この抗毒素はマムシ以外には効きません。また、この抗毒素は血清病という副作用を起こす危険性があります。その意味でも、咬んだへびは同定できるのが望ましいのです。なお、アオダイショウやシマへびの子供は、皮膚の模様が大人と異なり、一見するとマムシと似ています。ただし、マムシの瞳は縦長ですが、アオダイショウやシマへびの瞳は円型をしている点が異なります。

マムシに毒があるのは有名ですが、ヤマカガシにも毒があります。ヤマカガシは褐色の地色に黒い斑紋と赤、黄、深緑が混ざるカラフルな体色をしています。ただし、シマへびのように全身が黒色になる「黒化型」

も知られています。このヘビは頸部からも毒を分泌し、頸部を広げて威嚇姿勢をとることがあります。この毒が目に入ると失明をするおそれがあります。

これらの毒ヘビに咬まれた場合、咬まれた部位の少し近位を、幅の広い伸縮包帯などで指1本入る程度に軽く縛り、患部を心臓と同じ高さに保ち、局所と全身を安静にして受診します。切開、吸引、氷を用いた強力な冷却、駆血はいずれも行なってはいけません。抗毒素血清投与の適応について明確な根拠はいまだ示されていませんが、腫脹の高度な例と、全身症状を認める例には投与すべきとの意見が多いようです。投与にさいしてはアナフィラキシーと血清病に留意します。受傷後早期には症状の進行が予想しにくいいため、毒の注入が確実な例はすべて入院の適応となります。

ムカデ

ムカデは、偶然に触れたときに、防御のためにすみやかに咬みます。ただし、外国ではムカデによる死亡例がありますが、日本では死亡例は報告されていません。ムカデは嫌われ者ではありますが、堆積した有機物を土に還元して、土壌を豊かにするという役割をもっており、また、子供の子育てまでするムカデの姿を見ると、無闇な殺生も考えさせられます。

その他

チャドクガは一生の間、毒針毛を身にまとっています。この毛には棘があるため、搔くと皮膚に刺さって抜けなくなります。この毛虫に刺されたとわかったときは、その場所にセロハンテープを貼って毒針毛を取り、そのあと長く流水で洗い流すのがよいです。

イヌやネコの口腔には、高率にパスツレラ属の細菌がいます。抵抗力の低下した人がイヌやネコに咬まれた場合、この細菌によるパスツレラ症という病気が発症することがあります。

クモの中で人体に深刻なダメージを与えうるのは、カバキコマチグモとセアカゴケグモの2種です。セアカゴケグモは移入種で米子では発見されていませんが、カバキコマチグモは遭遇する機会があります。このクモはススキやイネなどの植物の葉を巻いて巣にします。不用意に巣を壊して咬まれることがあります。